

- 北海道北部に位置する中頓別町の基幹産業は草地型酪農であり、**農家戸数が5年間で21%減少して、地域の生乳生産量が減少**した。
- 普及センターでは**中頓別町全域を重点対象と位置づけ、生乳生産性の向上、若手農業者の育成**に取り組んだ。
- その中で、**良質粗飼料生産・乳牛管理の改善に取り組んだ**。令和3年からは**搾乳ロボットに適した乳牛管理にも着目**して地域振興に取り組んでいる。

具体的な成果

1 これまでの取組で生乳生産量が増加

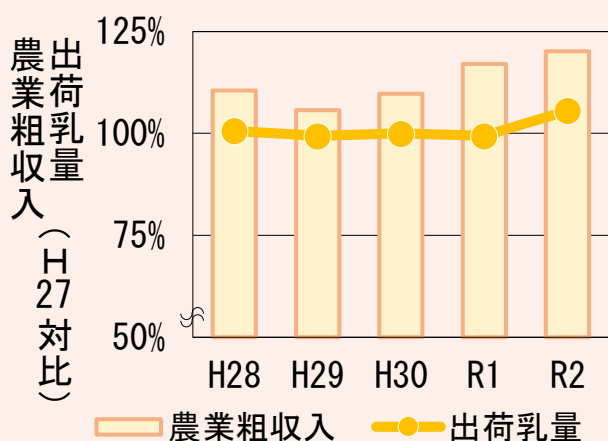
- TMRセンターの稼働により生乳生産量が増加（平成27年→令和2年）

生乳生産量

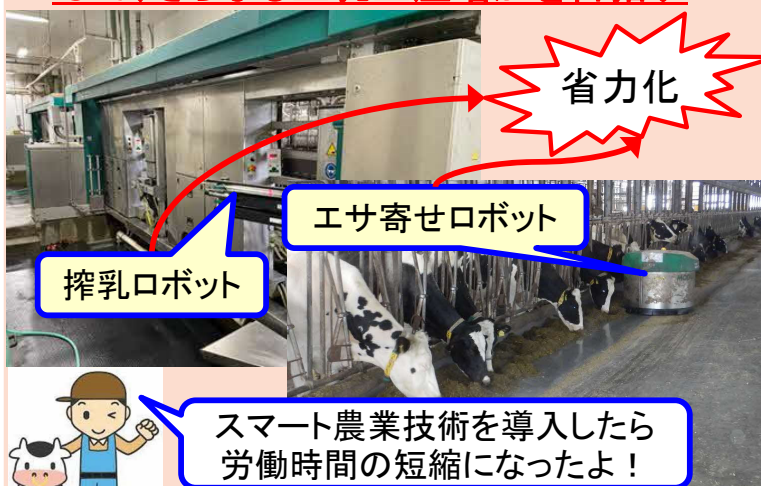
16,672 t → 17,602 t（106%）

2 経営改善により農業粗収入が増加

- 生乳生産量増加→**農業粗収入は120%増加**（平成27年→令和2年）



3 TMRセンターが搾乳ロボット牛舎を導入して、さらなる生乳生産増加を目指す



普及指導員の活動

平成28年

- 若手農業者を中心とした**懇談会を開催し合意形成を図った**

平成29～令和2年

- 地域の粗飼料は様々な形態で収穫されている中、**①牛舎改善による乳牛の安楽性改善、②粗飼料の収量性、調製法改善、③TMRメニューなど給与飼料提案（飼料設計や乳牛モニタリング）**により、生乳生産量の増加を支援



サイレージを多く食べさせましょう！



牛の調子は良くなってきたなー

平成28年～

- 若手農業者の技術力向上のために学習会を開催して**「次世代経営者の育成」**

令和3年～

- **搾乳ロボットに対応した飼養管理支援**

普及指導員だからできたこと

- **地域振興の視点で、それぞれの農場に適した提案で経営改善を達成**

- 継続して**「次世代経営者の育成」の実施**

- 新たな地域ニーズを把握して搾乳ロボットなど、**スマート農業にも対応した普及活動の展開**

北海道

世代を担う経営者育成による地域の発展

活動期間：平成 28 年～（継続中）

1. 取組の背景

- (1) 宗谷管内の中頓別町の基幹産業は草地型酪農であり、平成 24 年度からの 5 年間で酪農家戸数が 44 戸から 35 戸、21%が減少して、地域の生乳生産量が減少していた。
- (2) 普及センターでは中頓別町全体を重点対象と位置づけ、自給飼料に立脚した酪農地帯の地域振興発展のため活動した。地域で初めて稼働した TMR センターを含めて自給飼料の品質向上、飼料給与改善による生乳生産量の増加を目標とした。
- (3) また、若手農業者を「次世代経営者」と位置づけて、学習会や視察研修などを開催して技術力向上を目的に取り組んだ。

2. 活動内容（詳細）

- (1) 生乳生産性の向上【乳牛】
 - ・牛舎施設の改善による乳牛の安楽性向上により計画乳量生産の達成を支援（H28～29）
- (2) 乾乳期～泌乳前期の飼養管理改善【乳牛】
 - ・乾乳期・泌乳期の飼料給与改善（飼料設計や乳牛モニタリング支援）（H30～R 2）
- (3) 牧草の品質向上【自給飼料】
 - ・ほ場リストの作成支援（H30）
 - ・適正な肥培管理技術の導入支援（H30～R 1）
 - ・牧草収穫調製作業の効率化と細切サイレージの品質向上支援（R 2）
- (4) 次世代を担う農業経営者の育成
 - ・学習会・視察研修会実施による酪農及び経営技術力向上支援（H28～R 2）



写真1 情報発信をする「かわら版」



写真2 重点対象者との懇談会風景



写真3 乳牛を定期的にモニタリングして健康状態を確認

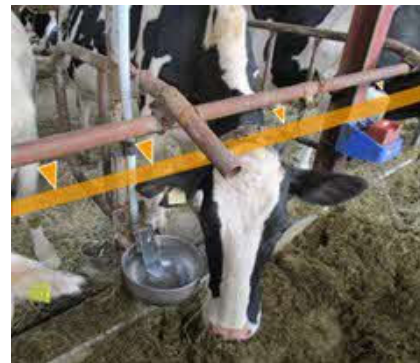


写真4 飲水姿勢の安楽性を高めるタイレールの改善

3. 具体的な成果（詳細）

（1）生乳生産性の向上【乳牛】

- ・換気やタイストール位置の変更など牛舎施設のカウコンフォート（安楽性）の改善を支援した。農業者からは「換気が改善され牛がよくエサを食べるようになった」との声があった。

（2）乾乳期～泌乳前期の飼養管理改善【乳牛】

- ・泌乳初期の乳量が少ないなど、分娩後の体調回復に問題があった5戸が乾乳期の飼料を改善した結果、分娩後50日後の乳量が改善後は118%になった。（図1）。
- ・K農場では、乳量増加に加えて分娩後60日以内の死廃頭数が大きく減少した（図2）。

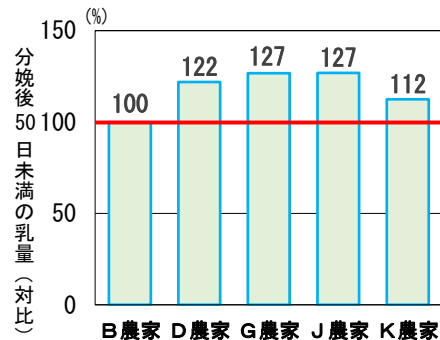


図1 分娩後50日未満の乳量変化（R1年／H29年対比）

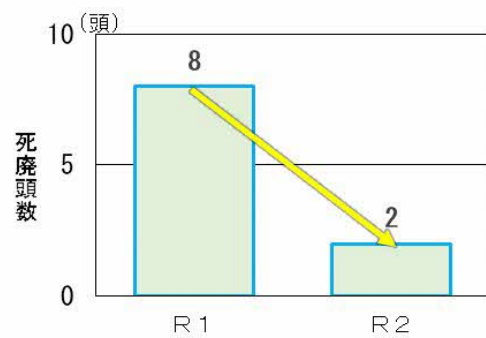


図2 分娩後60日以内の死廃頭数（K農場）

（3）牧草の品質向上【自給飼料】

- ・植生調査や土壌分析結果に基づき適正施肥を実施した結果、牧草の乾物収量が増加して必要牧草収量が確保された（図3）。

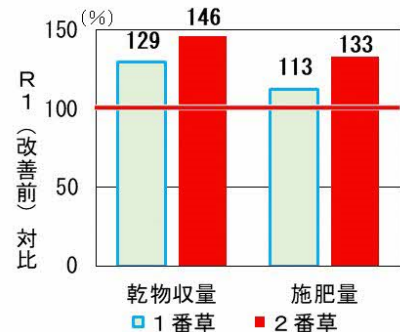


図3 適正施肥による牧草収量増

- (4) 次世代を担う農業経営者の育成
- ・若手農業者を対象とした学習会・視察研修会を継続したことで、優良酪農家の重要な技術を若手農業者が習得し、実践するきっかけとなった（写真5）。



写真5 ワークショップの開催

4. 農家等からの評価・コメント（中頓別町 Aさん）

- ・施設、労力などを踏まえた実践可能な改善提案だったので、牛舎の送風機の増設、放牧地の追播、粗飼料の増給、土壌診断結果に基づく施肥、サイレージ調製前のバンカサイロ清掃の徹底など、様々な改善に取り組んできた。将来の規模拡大に向けて今後も様々な提案をお願いしたい。
- ・自分の農場の牛は毎日見ているため、小さな変化に気づきにくい。農場で一緒に牛を見ながら普及センターの職員と意見交換することで様々な気づきに繋がっている。
- ・若手農業者を対象としたワークショップでは、中頓別町の酪農の未来について同世代の人と意見交換できた。将来を担うものとして良い刺激となった。

5. 普及指導員のコメント

（宗谷農業改良普及センター 地域係長 中塚ももえ）

- ・中頓別町の基幹産業は酪農で、その中核を担う概ね40才までの経営主・後継者を対象とし、豊富な粗飼料基盤から得られる粗飼料を良質化させ生乳生産性を高めることを目的とした。農場によって飼養環境や、労働力、投資可能額などが異なるため、それぞれの農業者に対して個別の対応が必要な部分もある。一見非効率に思えるがその手間を惜しまず農業者との合意形成を図りながら活動を進めることが最も重要と考えている。また、関係機関・団体と連携しつつ活動できたことが成果に繋がっていると考えられる。

6. 現状・今後の展開等

- (1) R2年までは重点対象を中頓別町の酪農家全戸で取り組んできたが、R3年からはTMRセンターが設立した搾乳ロボット牛舎の存在する地域を対象（9戸）に活動する。
- (2) 新たな重点対象では、①粗飼料の生産性向上、②生乳の生産性向上について支援を継続して、成果を地域全体に波及させる。